

「御霊を受ける恵み」 2025.05.11
コリント人へ手紙第一 2章6節～16節

はじめに

今年は、新約聖書「コリント人への手紙第一」から、みことばを学びます。

今朝は、2章6節から16節です。1章から取り上げられている「教会の分裂の危機」の続きです。

ここでは、教会の分裂の解決は、人間の知恵ではなく、神の知恵と御霊によらなければならないことを教えます。

使徒パウロは、2章1節から5節でコリントでの宣教を語り、十字架だけを強調したことを彼らに思い起こさせました。十字架こそ、彼らが直面する問題の解決だからです。そして、次ぎに、神の知恵と御霊を語ります。

1 神の知恵（6-9）。

使徒パウロは、「成人の間で、知恵を語ります」と言います。この「成人」とは、「幼子」に対するもので、これは、これまでのことからすると、十字架のことばを知り、キリストこそ、神の知恵、義、聖め、贖いであると、自分ではなく、主を誇りとする人々のことでしょう。

（1）この世の知恵ではない（6）。

この「成人」には、知恵を語りますが、その知恵は「この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去っていく支配者たちの知恵でもありません」と言います。

（2）隠された奥義としての神の知恵（7）。

この知恵は、神の知恵であって、「神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたもの」です。「私たちの栄光のため」とは、私たちが神の救いにあずかり、神のかたちを回復するために、神が世界の始まる前から用意された神の知恵なのです。

適用：私たちの救いは、人間の知恵や努力によるものではなく、神から始まります。「世界の始まる前から」つまり、

人間が生まれる前から、神の救いのご計画で始まったのです。

(3) この世の支配者はだれひとり悟らなかった (8)。

悟っていれば、「栄光の主を十字架につけはしなかった」。この世の支配者にとって、イエス・キリストは「栄光の主」でも何でもなし。神の知恵を持つ者だけが、見抜くことができるのです。

2 御霊によって啓示された神の知恵 (10-12)。

(1) この知恵を御霊によって啓示された (10)。

神はこの知恵を「御霊によって啓示された」ありますが、「御霊」とは何でしょうか。「御霊」は、三位一体の第三位格の神です。神は、御父、御子、御霊として永遠に存在されます。神は、この知恵を御霊によって啓示なさいました。

御霊による啓示」として、先ず頭に浮かぶのは、「聖書」です。9節で「聖書に書いてある通りです」と言っ
て、聖書が引用されていますが、聖書は、それほどまでに権威のある書物なのではないでしょうか。聖書の権威は、聖書が聖霊の導きによって書かれたことにあります。

「聖書はすべて、神の靈感によるもの」(Ⅱテモ 3:16)。

聖書の「預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったからです」

(Ⅱペテ 1:21)。

(2) 私たちは神の御霊を受けました (12)。

イエス・キリストを信じる者は、だれでも神の御霊を受けます。聖霊は、キリストに代わる「助け主」として、遣わされ、今、信じる者とともに、信じる者のうちにおられます。それは「恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです」とあります。聖霊が与えられる目的の一つは、神のものを知るためです。

適用：信仰や教会の事を知るために、神様は私たちに聖霊を与えてくださいました。

3 御霊によってわきまえる (13-16)。

(1) 御霊のことばをもって、御霊のことを解く (13)。

パウロは、宣教において、「人間の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用いる」と言います。説教者は御霊によって書かれた聖書を、御霊に導かれて語ります。

適用：説教は、聖書のことばを正確に解き明かし、それを人びとの生活に適用します。それには、聖霊の導きがなければ出来ません。

(2) 生まれながらの人は、御霊のことを受けない。

「生まれながらの人」とは、イエス・キリストを信じて、新しく生まれていない人です。その人には、神の御霊のことは愚かであり、悟ることはできません。ですから、神のことを知るためには、御霊によって生まれる必要があるのです。

(3) 御霊を受けている人は、すべてをわきまえる (15)。

御霊を受けている人は「すべてのことをわきまえます」。それは、「キリストの心がある」からです。

「キリストの心」については、使徒パウロがピリピに送った手紙に書いています。そこに強調されているのは、「へりくだり」と「従順」です。

コリントの教会の人たちは、自分の知恵にたより、自分を誇りとすることによって、教会に分裂を起こしました。彼らには、「キリストの心」失われていました。

それを回避する道は、キリストの十字架と御霊による知恵であることを、パウロはここでははっきりと教えたのです。

結論

使徒パウロは、コリント教会を分裂の危機から救うために、「十字架のことば」と「主を誇りとする」ことを教えました。そして、御霊による神の知恵が必要であることを説きました。

教会に必要なのは、人間の知恵ではありません。神の知恵であり、それは御霊によって与えられるのです。

私たちが、日々、御霊に導かれ、御霊に満たされて歩まなくてはならないかが分かります。教会は御霊によらなければ、分裂することも十分にあるのです。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」